

【 設問アプローチ 】

[23 - B]

- 問1 : ① [設問チェック] 傍線部の、本文中における〈 意味内容 〉を答える問題であることを把握する。
- [アプローチ] 本文読解中に、文脈から傍線部の意味内容を読み取り、〈 根拠 〉となる内容にチェックを入れておく。
- その上で、本文を一通り読み終えた後で、本文中のチェックと選択肢文の内容とを照らし合わせる。
- この際、自分が持っている〈 語句の知識 〉も活用しながら語句の文脈での使われ方を判断し、選択肢を吟味する。
- ② [本文読解 - a] 傍線部の〈 内容説明 〉は、5 ～ 7行目の妹の様子を表した〈 描写 〉から見てとることができる。
- また、〈 語句の知識 〉からは「小ざっぱりした」は、「さっぱりした感じのするさま。清潔できれいな印象のあるさま。」を意味する言葉であると考えられる。
- 以上で確認した、本文の〈 内容説明 〉と〈 語句の知識 〉を踏まえて傍線部の意味内容を考える。
- ③ [本文読解 - b] この語句は、文脈による〈 内容説明 〉の把握からというよりも、〈 語句の知識 〉によって本文での意味内容を考察する。
- 「端的」は、「核心を示しているさま。手短に要点をとらえるさま。」を意味する言葉であると考えられる。
- ④ [本文読解 - c] この語句は、文脈から「煙」が「空を曇らせている」様子を〈 描写 〉する表現として用いられていることが読み取れる。
- その上で、〈 語句の知識 〉から「どんより」は、「重苦しく、色が濁っている様子」を意味することが考えられる。
- ⑤ [設問読解] ②・③・④でそれぞれ確認した傍線部の〈 内容説明 〉を設問の〈 根拠 〉として、本文の内容を適切に説明している選択肢を、解答として選ぶ。

- 問2 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、「私」が傍線部のように言った
1 〈 理由 〉が尋ねられている。

- ② [本文読解 I] 傍線部前後の、物語の展開を確認する。
- まず傍線部までの内容では、13行目 ～ 17行目に現在の兄妹の関係性や、兄が妹に対して思っていることについて言及されている。この部分からは、兄妹の間に「わだかまり」があることを読み取ることができるが、そのような状態であるからこそ、18行目にあるように「話題には自然両親や兄妹のことばかりが選ばれた」という状況になること

が理解される。

- ③ [本文読解 Ⅱ] 傍線部以降の内容を確認すると、傍線部で「姨捨」というキーワードが用いられた〈理由〉が説明されている。

21行目～26行目の内容では、「姨捨という言葉は、-時々兄妹の間では使われていた」との記述があり、ここから「姨捨」が兄妹にとって「共通の言葉」であることが読み取れる。また、この「姨捨」という表現は母の性格を端的に表した表現であるとの記述もあり、兄妹はこの表現に母への「非難」と「労り」の気持ちを含めていた。

以上で確認した傍線部前後の内容を踏まえると、「私」が傍線部のように言った〈理由〉は、「兄妹の間にはわだかまりがあるが、それを意識せずに会話をするために兄妹の共通の言葉である母について話題に上げたため」であることが読み取れる。

- ④ [設問読解] ②と③で確認した内容を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

- 問3 : ① [設問チェック] 傍線部に関して、〈内容説明〉が求められていることを把握する。
また、「清子はどうのような言い方をしたのか」とあるので、本文中の清子の言動に注目する必要がある。

傍線部中の内容としては、「-あったからである」とあることから、この傍線部が前後の文脈の〈理由〉になっていることが読み取れる。

また、「はっとさせるようなものがあった」とあるので、その内容を本文から明らかにする。

- ② [本文読解] 傍線部中の「-あったからである」という〈理由〉を説明する内容や傍線部前後の文脈から、傍線部の〈内容説明〉は傍線部までの範囲にあることが〈予測〉される。

物語の展開を確認すると、兄妹の間で共通の言葉として用いられている母の「姨捨」について、会話が行われている場面になる。

この「姨捨」については、25行目・26行目に母への「非難」と「労り」の気持ちを含んだ表現であると述べられている。

そして、27行目～35行目に兄妹の会話のやり取りがあるが、この中の妹（清子）のセリフを受けて、兄（私）が傍線部のように「はっとした」という経緯を文脈から読み取ることができる。

28行目辺りでは、「母さんはあの時、-思うわ」と妹の〈心情〉が示されているが、これらの内容を踏まえて、傍線部の内容を考察すると「兄妹の間で姨捨は母の人柄を表す表現だったが、姨捨という言葉には母の本心が含まれているのではないかと妹が言ったことで、兄は意表を突かれた」と考えることができる。

- ③ [設問読解] ②で確認した内容を踏まえて、傍線部の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部の内容に基づいて〈清子の人物像〉を考える問題であることを把握する。
→ [アプローチ] それぞれの波線部中の〈心情〉, 〈描写〉といった内容を把握し, それらを踏まえて〈清子の人物像〉を考察する。

② [本文読解] ①で確認したように, 波線部やその前後の文脈から清子の〈心情〉や〈描写〉を読み取る。

波線部a「淋しそう」や波線部c「清子は - 住んでいたい気持ち」からは, 清子の「孤独」な様子が読み取れる。

その一方で, 波線部dでは「少女のようだった。苦勞している女の仕種ではなかった。」との記述があり, ここから清子の2面的な人物像を読み取ることができる。

以上の内容から, 「清子は孤独に生きているが, その生き方によって生きやすさを手に入れている」と考えることができる。

③ [設問読解] ②で確認した波線部の要点を踏まえて, 本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 傍線部に関して, 〈「私」の心情〉が問われていることを把握する。
また, 設問文に「清子を駅まで見送るところから」とあることから, 本文の該当部分から傍線部に関する〈内容説明〉を確認する。

② [本文読解] 傍線部の前後の内容を確認すると, 傍線部直前の「妹は - していたが,」を受けて傍線部の内容があることが読み取れる。
また, 傍線部の内容や前後の文脈から, 傍線部についての〈内容説明〉は傍線部までの範囲にあることが〈予想〉される。

設問文で確認した「清子を駅まで見送るところ」は, 本文の62行目からの場面になるので, この部分以降に傍線部の〈内容説明〉があることが考えられる。

この範囲には, 問4でも確認した〈清子の人物像〉に関する〈描写〉があり, この他に炭鉱の街の様子が〈描写〉されている。

この〈街の描写〉を踏まえて, 傍線部の「人工の不自然さ」との表現があると考えられる。

③ [設問読解] ②で確認した〈清子の人物像〉と〈街の描写〉から, 傍線部の意味内容を整理すると, 「人工の不自然さを持った炭田地帯で, 孤独に生きる清子(妹)の姿が想像された」となる。

以上を踏まえて, 本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問6 : ① [設問チェック] 傍線部について, 〈内容説明〉が求められていることを把握する。

また、傍線部中に指示語「その考え」があるので、その指示内容を本文から明らかにする。

- ② [本文読解 I] 傍線部中の指示語「その考え」の指示内容を本文から確認する。
102行目に「昨夜清子と話してから何か考えなければならぬこと」があったとあり、これが指示語の指示内容であると分かる。

この指示内容の中に「昨夜清子と話して」とあることから、「私」が「清子」と昨夜話をした本文前半の場面が設問の読解に関わることが理解される。

前半の場面では、兄妹が母の「姨捨」について会話をしている様子が描かれていたので、この場面の内容を踏まえて傍線部の意味内容を考察する。

- ③ [本文読解 II] 文脈から、傍線部の〈 内容説明 〉は傍線部以降の部分にあることが〈 予測 〉される。

106行目からの段落では、「厭世観」がキーワードになっている。

108行目からは「母のそれと同質な厭世的な性向が幾らかでもその役割を持っていはしないか」とあるが、この表現については前半の場面でも、45・46行目に「わたしだって - 一切の煩わしさから離れて一人になりたくなっちゃて - 」と関連する内容があるので、この二つの部分をそれぞれ傍線部の内容を理解するための〈 根拠 〉として押さえる。

- ④ [設問読解] ②と③で確認した内容を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。